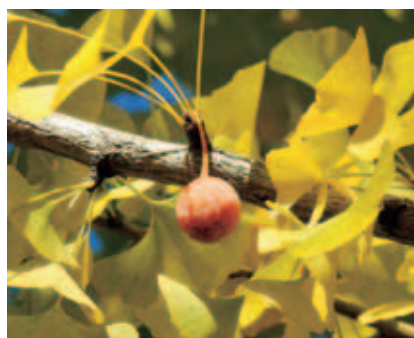




教室のご案内

葉っぱのしおりづくり教室(要申込)

11月3日(日) 午前9時～11時

※色づいた葉っぱを採集し、しおりにします。

バードウォッチング(自由参加)

10月27日、11月24日(日) 午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堰堤えんてい

秋が深まるにつれ、陶史の森の木々の葉が赤や黄色になり、緑一色だった森をカラフルな色に染めていきます。河川広場や第1駐車場周辺のイチヨウの木も黄色くきれいに紅葉します。

イチヨウは約2億年前に栄え、現在まで種を絶やさずに続く樹種で「生きた化石」と呼ばれています。イチヨウはマツやスギと同じ裸子植物ですが、針葉樹ではありません。特徴的な扇形の葉は切れ込みのない葉、切れ込みが1つの葉、複数に切れ込む葉などがあります。

イチヨウは雌雄異株で、花粉を出す雄の木と銀杏ぎんぎょと呼ばれるオレングシ色の実をつける雌の木に分かれています。10～11月頃に熟す銀杏は果実ではなく種子そのもので、独特なおいがする柔らかい部分は外種皮がいしゅひという種子の皮です。そして、内部の硬い殻の内側にあり食用にする部分は胚乳はいにゅうと呼ばれています。樹齢は数百年～数千年ともいわれ、大きく育ち長生きするという特徴から、花言葉は「長寿」「莊嚴」などです。

太古に思いをはせながら生きた化石をお楽しみください。

2億年前からの生き残り ーイチヨウー

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)



トラックに載せられるレプリカ



市役所に展示された様子



取り外された頭部

6月号で紹介した隠居山出土の化石「パレオパラドキシア・タバタイ」の続報です。この化石は昭和25年に発見されました。世界的に貴重な発見だったことから、現物は研究のため東京へ送られ、代わりにレプリカが昭和49年に東京の国立科学博物館から土岐市へやってきました。

それから50年間、旧文化会館内に展示されてきたレプリカですが、新博物館への建て替えに向けて9月から始まった建物解体工事に先がけて、8月末に市役所へと移設しました。移設の際には、全身のクリーニングを行って50年分

の汚れを落とし、一度頭部を取り外したうえで展示ケースごと厳重に梱包し、トラックで輸送しました。

新博物館で再び展示する日まで、市役所1階、正面玄関を入って左の階段下で展示しています。開庁時間内はいつでもご覧いただけます。市役所にお越しの際は、ぜひご覧ください。

第5回 タバタイ大移動